

豊明市環境基本計画 目標の検証

第2四半期のまとめ

(平成18～23年度)

A 自然の保全

<p>環境目標</p> <p>(短期目標)</p> <p>自然豊かな緑地を保全し、そこに住む動植物の保護に努めます。</p> <p>(長期目標)</p> <p>市の全ての事業・活動は、環境保全と調和して行います。</p> <p>ホタル、メダカ等の身近な生き物(注1)の息を維持していきます。</p> <p>(注1)保全目標とする生き物の種類は、調査等を行い指標生物を選定し決めていきます。</p>
--

目標設定にあたって (H18)

市内の自然を残すために、緑と水辺の豊かな環境をめざし、生物多様性の保全活動を継続し、現存する動植物の維持に努めます。

(例)大狭間湿地の保全、生育する動植物の調査を継続していきます。

ナガバノイシモチソウについては、自生地への給水をはじめ適切な維持管理を行い、絶滅から守ります。

二村山緑地を残すために、市で購入事業を進め、市民の協力で保全整備を進めます。

(二村山環境保全推進協議会で保全整備中)

開発行為にて二村山等の緑地が減少することのないように努力します。

豊明市史総集編にて豊明の希少生物を取りまとめ、公共事業等の計画時に生かすようにします。

土地利用の状況 (緑地・公園・水辺)

・毎年面積を検証する。 (単位: ha)

	平成5年	平成16年	検証年	増減
森林	120	115		
水辺	182	182		
都市公園等	44	45		
計	346	342		

(平成5年値は第3次総計、平成16年値はとよあけの統計より)

放置雑木林の地主へ保全整備するよう啓発する。

目標の検証（H19）

市内の自然を残すために、緑と水辺の豊かな環境をめざし、保全活動を継続して行った。

（例）大狭間湿地の保全

ナガバノイシモチソウについては、自生地への給水をはじめ適切な維持管理を継続して行った。

二村山緑地を残すために、市で購入事業を進めることができなかったが、市民と共に保全整備を進めた。

豊明市史総集編にて豊明の希少生物を取りまとめた。

土地利用の状況（緑地・公園・水辺）

平成20年度実施

市内の自然を残すために、緑と水辺の豊かな環境をめざし、保全活動を継続して行った。（生涯）

（例）大狭間湿地の保全

ナガバノイシモチソウについては、自生地への給水をはじめ適切な維持管理を継続して行った。

二村山緑地を残すために、市民とともに保全整備を進めた。（都市）

土地利用の状況「緑地・公園・水辺」

【H19・20 共通表】

（単位：ha）

	平成5年	平成16年	平成17年	平成18年	増減
森林	120	115	115	115	-5
水辺	182	182	182	182	0
都市公園等	44	46	48	48	+4
計	346	343	345	345	-1

資料：平成5年値 第3次豊明市総合計画 31P 土地利用

平成17・18年値 森林...とよあけの統計 地目別土地利用面積

水辺...河川（河川敷を含む）・ため池等

都市公園等...都市公園・市民緑地

平成21年度実施

市内の自然を残すために、緑と水辺の豊かな環境をめざし、保全活動を継続して行った。(生涯)

・大狭間湿地の保全管理

ナガバノイシモチソウについては、ボランティアと協定書を結び保全管理を継続して行った。

・とよあけの自然

市内の動・植物を「とよあけの自然」として毎月広報に掲載した。

二村山緑地を残すために、二村山環境保全推進協議会とともに保全整備を進めた。

(都市)

地区計画により榎山地区を開発。107区画。

土地利用の状況「緑地・公園」

平成22年度実施

市内の自然を残すために、緑と水辺の豊かな環境をめざし、保全活動を継続して行った。(生涯学習課)

二村山緑地を残すために、二村山環境保全推進協議会とともに保全整備を進めた。

(都市計画課)

【H21・22 共通表】

緑地、公園の状況

(単位：箇所)

公園名	平成5年	平成18年	平成21年	平成22年
都市公園	37	47	51	51
街区公園	31	38	39	39
近隣公園	3	6	6	6
風致公園	1	1	1	1
歴史公園	1	1	1	1
墓園	1	1	1	1
市民緑地			3	3

資料：平成5年値 第3次豊明市総合計画

平成18年値 第4次豊明市総合計画

平成23年度実施

都市マスタープランに基づき、二村山緑地を残すために、二村山環境保全推進協議会とともに保全整備を進めた。

(都市計画課) 継続

緑と水辺の豊かな環境をめざし、市内の自然(ナガバノイシモチソウ、シラタマホシクサ、ハッチョウトンボ、大狭間湿地)を残すための保全活動を行った。

(生涯学習課) 継続

生物多様性確保のため、固有種の保存とともに、外来生物の予防3原則をPRした。

(環境課) 継続

B 風景の保全

環境目標

(長期目標)

次世代に伝えていきたい風景等(注1)を維持していきます。

(注1)保全目標とする対象は、調査等により、大切にしたい景色、自然景観、史跡・文化財等、伝統文化などを選定し決めていきます。

目標設定にあたって(H18)

長期目標のみで、次のとおり継続して維持活動を行います。

史跡(桶狭間古戦場伝説地・戦人塚・阿野一里塚)について樹木剪定等による維持管理を行います。

埋蔵文化財(古窯等)の所在把握、開発業者への指導を行います。

指定民俗文化財等の保存会をはじめ、伝承者に補助金を交付します。

ため池は農村の歴史的な原風景であり、文化遺産であるため、整備する時には風景にも配慮します。

目標の検証(H19)

次のとおり継続して維持活動を行った。

史跡(桶狭間古戦場伝説地・戦人塚・阿野一里塚)について樹木剪定等による維持管理を行った。

埋蔵文化財(古窯等)の所在把握、開発業者への指導を行った。

指定民俗文化財等の保存会をはじめ、伝承者に補助金を交付した。

農村の原風景であるため池を整備する時には風景にも配慮した。

平成20年度実施

次のとおり継続して維持活動を行った。(生涯)

史跡(桶狭間古戦場伝説地・戦人塚・阿野一里塚)について樹木剪定等による維持管理を行った。

埋蔵文化財(古窯等)の所在把握、開発業者への指導を行った。

指定民俗文化財等の保存会をはじめ、伝承者に補助金を交付した。

平成21年度実施

次のとおり継続して維持活動を行った。(生涯)

史跡(桶狭間古戦場伝説地・戦人塚・阿野一里塚)について樹木剪定等による維持管理を行った。

埋蔵文化財(古窯等)の所在把握、開発業者への指導を行った。

指定民俗文化財等の保存会をはじめ、伝承者に補助金を交付した。

・名木等の保全につきましては、実態調査を行った。(生涯)

豊明市史掲載総数 123本を調査した。(クロマツ・ケヤキ・ソメイヨシノ等)

現在文化財としての指定名木は、指定なし。

平成22年度実施

史跡(桶狭間古戦場伝説地・戦人塚・阿野一里塚)について樹木剪定等による維持管理を行った。(生涯学習課)

埋蔵文化財(古窯等)の所在把握、開発業者への指導を行った。

(生涯学習課)

指定民俗文化財等の保存会をはじめ、伝承者に補助金を交付した。

(生涯学習課)

大挾間湿地の一般公開を行った。(生涯学習課)

平成23年度実施

史跡の維持管理を行った。

(生涯学習課)継続

埋蔵文化財の所在把握と、開発業者への指導を行った。

(生涯学習課)継続

指定民俗文化財等の保存会をはじめ、伝承者に補助金を交付した。

(生涯学習課)継続

ナガバノイシモチソウ自生地、大挾間湿地の一般公開を行った。

(生涯学習課)継続

C 自然とのふれあいの確保

環境目標

(長期目標)

全ての地域に自然とふれあえる場を確保します。

目標設定にあたって(H18)

長期目標のみで、次のとおり継続してふれあいの場の確保に努めます。

ビオトープの建設・学校花壇コンクールへの参加を行います。

豊根の野外教育センターの維持管理を行っていきます。

環境団体への水質調査キット等の貸出依頼があれば協力を行います。

市民が農業とふれあう機会の確保するため市民菜園等の整備に努めます。

目標の検証(H19)

次のとおり継続してふれあいの場の確保に努めた。

ビオトープの保全、学校花壇・学校農園による土とのふれあいを行った。

豊根の野外教育センターの維持管理を行った。

環境団体への水質調査キット等の貸出を行った。

市民が農業とふれあう機会の確保するため市民菜園等の整備に努めた。

平成20年度実施

次のとおり継続してふれあいの場の確保に努めた。

ビオトープの保全、学校花壇・学校農園(大宮小・三崎小・沓掛小)による土とのふれあいを行った。(学教)

豊根の野外教育センターの維持管理を行った。(生涯)

環境団体への水質調査キット等の貸出を行った。(環境)

市民が農業とふれあう機会の確保するため市民菜園(6カ所)の整備に努めた。(産業)

平成21年度実施

次のとおり継続してふれあいの場の確保に努めた。

学校花壇・学校農園（大宮小・三崎小・沓掛小）による土とのふれあいを行った。

（学教）

沓掛小学校において井堰川で水生生物調査を行った。また、環境団体へ水質調査キット等の貸し出しを行った。（環境）

野外教育センター（豊根村）の維持管理を行った。（生涯）

農業とふれあう機会につきましては、家庭菜園及び市民農園を開設し市民に提供している。（産業）

平成22年度実施

学校花壇・学校農園による「土とのふれあい」を行った。（大宮小学校・三崎小学校・沓掛小学校）（学校教育課）

沓掛小学校が井堰川の水生生物調査を行い、それに協力する環境団体に水質調査キット等を提供した。（環境課）

野外教育センター（豊根村）の維持管理を行った。（生涯学習課）

市民農園を5か所設置し、市民に農業とふれあう機会を提供した。（産業振興課）

平成23年度実施

学校花壇・学校農園による「土とのふれあい」を行った。

（学校教育課）継続

沓掛小学校が井堰川の水生生物調査を行い、それに協力する環境団体に水質調査キット等を提供した。

（環境課）継続

豊根村にある豊明市野外教育センターの維持管理を行った。

（生涯学習課）継続

市営の市民農園（5か所）のほか、JA、NPO、個人営の貸農園により、市民が農業とふれあう機会を提供した。

（産業振興課）継続

D ため池等の水辺の保全・活用

環境目標

(短期目標)

河川及びため池の再整備を進め、人と自然との交わりが持てる場にします。

(長期目標)

それぞれのため池は、その個性や地域特性に応じた保全活用を図っていきます。
市内の水辺における自然な水際の残存距離を現況より延長します。

目標設定にあたって(H18)

市内には、38箇所のため池があり利水及び治水機能を有している。これらのため池において治水機能を向上させるため、改修する計画がある。

- ・現状：改修済み 9池、改修計画あり 16池、計画なし 13池
 - ・改修計画池 住吉池・濁池・荒巻池・大原池・地藏池・道池・榎山池など
- 河川は、親水護岸の設置等を行う。

親水護岸整備(整備延長)50m(第4次総計より 2010年目標値)

実施予定河川 現在計画中

ため池・河川の改修工事計画策定時に自然の回復に努めます。

目標の検証(H19)

市内には、38箇所のため池があり利水及び治水機能を有している。これらのため池において治水機能を向上させるため、改修工事(住吉池・鶴根北池)を行った。

- ・現状：改修済み 11池、改修計画あり 14池、計画なし 13池
- ・今後改修計画池 濁池・大原(南)池・地藏池など

ため池・河川の改修計画策定においては、自然環境への配慮に努めた。

排水機場の整備(大脇・阿野・大久伝)が完了した。

平成20年度実施

市内には、40箇所のため池があり利水及び治水機能を有している。これらのため池

において治水機能を向上させるため、改修工事（濁池 - H20・住吉池 - H19・鶴根北池 - H18）を行った。（都市）

・現 状：改修済み 12池、改修計画あり 13池、計画なし 15池

今後改修計画池 大原（南）池・榎山池・地蔵池など

・濁池の工事内容

余水吐嵩上げ及び堤体の補強を行い、常時水位を下げることなく洪水調節容量を約1万5百m³増加させた。

ため池・河川の改修計画策定においては、自然環境への配慮に努めた。（都市）

豊明まつりにボランティア参加し、水質浄化パンフレット等を配布した。（環境）

平成21年度実施

勅使池整備事業「愛知県」において、外周の散策路の整備（親水護岸）及び橋梁の設置を行った。（土木）

ため池・河川の改修計画策定においては、自然環境への配慮に努めた。（都市）

三河湾及び河川浄化推進のため「水切ネット」を配布した。（環境）

平成22年度実施

愛知県の整備事業により、勅使池の外周の散策路の整備（親水護岸）と橋梁の設置を行った。（産業振興課）

大狭間池の改修工事を行った。（土木課）

三河湾及び河川浄化推進のため「水切ネット」を配布した。（環境課）

平成23年度実施

県営農村自然環境整備事業を進め、勅使池の親水護岸工事等を行った。（H14～）

（産業振興課）継続

大狭間池の改修工事を行った。

（土木課）継続

水域浄化のため「水切ネット」と水質浄化PRパンフレットを配布した。

（環境課）継続

E 水質の浄化

環境目標

(短期目標)

浄化槽を使用している家庭に対し、保守点検・清掃・法定点検の実施指導を強化します。

(長期目標)

市内のため池の水質は、COD値8mg/l(注1)以下をめざします。

市内河川の水質は、BOD値5mg/l(注2)以下をめざします。

(注1)生活上不快を感じない限度の環境基準値(湖沼C類型)

(注2)コイ・フナが生息するに適する環境基準値(C類型)また、市内河川の水質目標値については生活排水対策推進計画による。

目標設定にあたって(H18)

市街化区域の下水道整備が平成17年全て完了し、それにより河川の浄化が進んだ。今後、下水道への接続を進めます。

ため池はなかなか浄化が進まない状況下にある。市街化調整区域で、農村集落排水に接続できない地区の生活排水を改善するには、浄化槽の整備・点検等をしっかり実施してもらうことにより、水質の浄化を図り、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への転換を図る。

生活排水対策推進計画(H20年度)を作成し、今後10年間の水質汚濁防止を図る予定である。

浄化槽法等の法令の変更について、使用者にわかりやすいようにPR活動に努めます。

ため池の浄化を図る為に、何らかの市民参加・協力を得る方法を検討します。

計画の修正等

浄化槽法の一部改正 法定検査の義務化。

・浄化槽検査を使用開始後従来6~8ヶ月だったものが3~8ヶ月に変更された。

目標の検証(H19)

市街化区域の下水道整備が平成17年全て完了し、平成18年度調整区域への下水道事業の進め方に関する意見書が検討委員会より、提出された。

ため池はなかなか浄化が進まない状況下にあります。市街化調整区域で、農村集落排水に接続できない地区の生活排水を改善するには、浄化槽の整備・点検等をしっかり実施してもらうために広報等で周知を図った。

生活排水対策推進計画（平成 20 年度）を作成し、今後 10 年間の水質汚濁防止を図るために、予算の確保を図った。

浄化槽法等の法令の変更について、使用者にわかりやすいように P R 活動に努めた。市民の参加・協力を得て、ため池（椎池・琵琶ヶ池）の水質常時監視を図った。

平成 20 年度実施

生活排水対策推進計画を改訂し、今後 10 年間の水質汚濁防止を図るための方針を検討した。（環境）

浄化槽設置費補助金要綱を改正し、単独浄化槽からの切り替えに対しても補助ができるようにした。（環境）

市街化区域の下水道整備が平成 17 年度全て完了し、平成 18 年度調整区域への下水道事業の進め方に関する意見書が検討委員会より提出され、方針に基づき次年度以降の計画を立案した。（都市）

ため池はなかなか浄化が進まない状況下にあります。市街化調整区域で、農村集落排水に接続できない地区の生活排水を改善するには、浄化槽の整備・点検等をしっかり実施してもらうために広報等で周知を図った。（環境）

愛知県ため池保全構想に対応するために、市の保全計画の検討に入った。（土木）

平成 21 年度実施

生活排水対策推進計画の河川浄化推進を呼びかけるため「水切ネット」を配布し啓発活動を行った。（環境）

浄化槽設置費補助金要綱を改正し、単独浄化槽からの切り替えに対しても補助ができるようにした。「41 基に対し補助」（環境）

市街化調整区域で、農村集落排水に接続できない地区の生活排水を改善するには、浄化槽の整備・点検等を実施してもらうために広報等で周知を図った。（環境）

愛知県ため池保全構想に対応するために、市の保全計画の検討に入った。（土木）

平成22年度実施

生活排水の浄化のため「水切ネット」を配布し、河川や三河湾の浄化を呼び掛ける啓発活動を行った。(環境課)

合併処理浄化槽の設置者に補助金を交付した。(36件)(環境課)

浄化槽の浄化能力の維持のため、法定点検整備の広報と啓発を行った。(環境課)

愛知県ため池保全構想に対応するために、市の保全計画の検討に入った。

(産業振興課)

平成23年度実施

生活排水の浄化のため「水切ネット」を配布し、河川や三河湾の浄化を呼び掛ける啓発活動を行った。

(環境課) 継続

合併処理浄化槽の設置者に補助金を交付した。

(環境課) 継続

浄化槽の法定点検等の啓發文書の全市回覧を行った。

(環境課) 新規

愛知県ため池保全構想に対応するために、市の保全計画の検討に入った。

(産業振興課) 継続

F 産業活動の支援

環境目標

(短期目標)

小規模事業所の環境対策推進を図ります。

(長期目標)

地域環境に配慮した事業活動をめざします。

目標設定にあたって(H18)

これまで、ISO取得に関心が集まっていたものから、小規模事業所の環境対策推進を図るための施策に転換します。具体的には、Mの快適で安心な都市づくりでの短期目標とリンクすることになる。

(例) ISO14000 シリーズ認証取得事業所は、12事業所ある。

ISO9000 シリーズ認証取得事業所は、4事業所ある。

(市へ特定施設届出時に確認できた事業所)

計画の修正等

ISO14001 認証取得事業所数は、13事業所(第4次総計より 2010年目標値)

目標の検証(H19)

これまで、ISO取得に関心が集まっていたものから、小規模事業所の環境対策推進を図るために「ECOとよあけ環境事業所設置要綱」を制定し、環境配慮型事業所の実現をめざした。

・ISO取得事業所

ISO14000 シリーズ認証取得事業所 12事業所

ISO9000 シリーズ認証取得事業所 4事業所

ISO14001 シリーズ認証取得事業所数 13事業所

平成20年度実施

これまで、ISO取得に関心が集まっていたものから、小規模事業所の環境対策推進を図るために「ECOとよあけ環境事業所設置要綱」を制定し、環境配慮型事業所の実現をめざした。

商工会に依頼し、募集事務を行ったところ、4つの事業所より協力を得ることができた。

(環境)

ISO取得事業所

ISO14000 シリーズ認証取得事業所	12事業所
ISO9000 シリーズ認証取得事業所	4事業所
ISO14001 シリーズ認証取得事業所数	13事業所

平成21年度実施

小規模事業所の環境対策推進を図るために「ECOとよあけ環境事業所設置要綱」を制定し、環境配慮型事業所の実現をめざした。(環境)

ISO取得事業所

ISO14000 シリーズ認証取得事業所	12事業所
ISO9000 シリーズ認証取得事業所	5事業所
ECOとよあけ認定事業所	4事業所
ISO14001 シリーズ認証取得事業所数	13事業所

平成22年度実施

小規模事業所の環境対策推進を図るために「ECOとよあけ環境事業所設置要綱」を制定し、環境配慮型事業所の実現をめざした。(環境課)

ISO取得事業所

ISO14000 シリーズ認証取得事業所	11事業所
ISO9000 シリーズ認証取得事業所	5事業所
ECOとよあけ認定事業所	4事業所
ISO14001 シリーズ認証取得事業所数	11事業所

平成23年度実施

事業系資源ごみの回収を商工会が行っている。

(産業振興課) 継続

小規模事業所の環境対策推進を図るために「ECOとよあけ環境事業所設置要綱」を制定し、環境配慮型事業所の実現をめざした。

(環境課) 継続

愛知県の行う産業廃棄物の調査指導に協力している。

(環境課) 継続

G 農地の保全・農業の支援

<p>環境目標</p> <p>(短期目標)</p> <p>遊休農地を少なくし、農業後継者の育成に努めます。</p> <p>(長期目標)</p> <p>農地を確保するとともに、増加傾向へ転じるような田畑を復旧させる工夫を行っていきます。(注1)</p> <p>(注1) 耕作放棄地の復元等</p>

目標設定にあたって(H18)

遊休農地の増加・後継者不足が課題になっているので、緊急課題として短期目標を掲げた。

農地の面積の動向も必要である。(農地 576ha ある。(参照：2005 検証より))

次の事業は継続します。

地産地消をめざし、産直センターを充実させるための支援をします。

2004年(現状値)に2、2010年に3、2015年に4箇所。(第4次総合計画)

農業の後継者づくりのために、後継者の育成を図ります。

転作を奨励します。

(例) 黒大豆を生産し、市内の和菓子店で羊羹にして特産品として販売。

市民菜園の拡充を図ります。

2004年(現状値)に156、2010年に180、2015年に200区画。

(第4次総合計画)

生ごみ堆肥を利用した農業の推進を行います。

(単位：ha)

	16年	17年	18年	19年	20年
田	386				
畑	190				
合計	576				

目標の検証(H19)

遊休農地の増加・後継者不足の解決を図った。

農地の面積の動向も必要であります。(農地 576ha ある。(参照：2005 検証より))

地産地消をめざし、産直センターを充実させるための支援をした。

2004年(現状値)に2、2010年に3、2015年に4箇所。

(第4次豊明市総合計画より)

農業の後継者づくりの育成を図った。

転作を奨励した。

(例) 黒大豆を生産し、市内の和菓子店で羊羹にして特産品として販売。

市民菜園の拡充を図った。

2004年(現状値)に156、2010年に180、2015年に200区画。

(第4次豊明市総合計画より)

生ごみ堆肥を利用した農業の推進を行うために、「山田体験農場」を開設した。

【H20表にまとめ】

平成20年度実施

切山西土地改良事業の事業が開始された。(産業)

事業年度 H20～H23 事業面積 4.3ha

地産地消をめざし、産直センターを充実させるための支援をした。(産業)

第4次豊明市総合計画より 2010年目標値

産直所の設置箇所数 2004年(現状値)に2、2010年に3箇所。

転作を奨励し、地産地消を図った。(産業)

(例) 黒大豆を生産し、市内の和菓子店で羊羹にして特産品として販売。

遊休農地対策としてブラジル野菜の栽培を推奨した。(産業)

レタス・ズッキーニー・ナス・トマトなどを栽培。間米地区(耕作面積1.5ha)

とよあけEco堆肥を利用した農業の推進を行うために、「山田体験農園」を本格稼働した。

農地の面積 (農地 576ha ある。(参照：2005 検証より))

(単位：ha)

	16年	17年	18年	19年	20年
田	386	385	383		
畑	190	190	190		
合計	576	575	573		

(平成17・18年値はとよあけの統計より)

平成21年度実施

地産地消をめざし、産直センター（西部農協）を拡張し充実を図った。（産業）

第4次豊明市総合計画より 2010年目標値

産直所の設置箇所数 2004年（現状値）に2箇所、2010年に3箇所。

（株）豊明アグリサービスを設立した。（産業）

農業の経営、生産、農作業の受託及び保全管理作業を目的として設立した。

次のとおり継続して農地の保全・農業の支援に努めた。

「とよあけEco堆肥」を利用した農業の推進を行うために、「山田試験農園」を本格稼働した。「70区画」（環境）

切山西土地改良事業が進んでいる。（産業）

事業年度 H20～H23 事業面積 4.3ha

遊休農地対策としてブラジル野菜の栽培を推奨した。（産業）

レタス・ズッキーニー・ナス・トマトなどを栽培。間米地区（耕作面積1.5ha）
転作を奨励し、地産地消を図った。（産業）

黒大豆を生産し、市内の和菓子店で羊羹にして特産品として販売。

経営耕地面積

（単位：ha）

	7年	12年	17年
田	379	337	262
畑	104	97	73
樹園地	36	32	24
計	519	466	359

（農業センサス・農林業センサス）

平成22年度実施

地産地消をめざし、2か所の産直所の充実を図った。（産業振興課）

農業の経営、生産、農作業の受託及び保全管理作業を目的とした（株）豊明アグリサービスの充実を図った。（産業振興課）

「とよあけEco堆肥」を利用した農業の推進のため、「山田試験農園」を本格稼働した。（環境課）

切山西土地改良事業が完了した。（産業振興課）

転作を奨励し、地産地消を図った。（産業振興課）

<参考> 経営耕地面積 【H21 同表】

平成23年度実施

地産地消をめざし、2か所のJA産直センターの充実を図った。

(産業振興課) 継続

農業の経営、生産、農作業の受託及び保全管理作業を目的とした(株)豊明アグリサービスの充実を図った。

(産業振興課) 継続

「とよあけEco堆肥」を利用した農業の推進のため、山田試験農園を行っている。

(環境課) 継続

転作を奨励し、地産地消を図った。

(産業振興課) 継続

遊休農地のコスモス・菜の花の植栽を推進した。

(産業振興課) 再開

H 水とまちづくり

環境目標

(短期目標)

歩道透水性舗装整備率7%をめざします。(注1)

(長期目標)

緑地等の雨水浸透面積の確保をめざします。

(注1) 第4次総合計画に、2004年(現状値)に5.6%、2010年に7.0%
2015年に8.0%と目標値が定められている。

目標設定にあたって(H18)

- ・雨水の流出抑制を図るため、歩道の透水性舗装率を高めます。
- ・次の事業は継続します。

安全な水道水を安定供給をするために、企業団との連携強化を図ります。

水道水源地との友好都市の提携を図ります。

善意の井戸水登録制度(湯水時に使用を目的とした制度)を維持し、毎年登録者を募っていきます。(119ヶ所 H17年度)

小中学校の水道口に節水コマをつけ、節水に心がけます。

民間の開発行為において、駐車場内に透水性舗装等の設置を働きかけます。

市においても都市計画道路や区画整理区域内の歩道に透水性舗装、インターロッキングを実施します。

雨水利用情報提供の強化と使用促進を図ります。

計画の修正等

歩道透水性舗装整備率7.0%(第4次総計より 2010年目標値)

目標の検証(H19)

雨水の流出抑制を図るため、歩道の透水性舗装率を高めた。

安全な水道水を安定供給するために、企業団との連携強化を図った。

水道水源地との友好都市の提携を図った。

善意の井戸水登録制度(湯水時に使用を目的とした制度)を維持し、毎年登録者を募った。(122ヶ所 H18年度)

小中学校の水道口に節水コマをつけ、節水に心がけた。

民間の開発行為においては、保水能力を保持するための対策を積極的に指導した。
公共工事においても、保水能力を保持するための対策を実施した。
雨水利用のための情報が提供できる体制づくりを図った。

平成20年度実施

雨水の流出抑制を図るため、歩道の透水性舗装率を高めた。(土木)

二村台地区にて実施...約707m²、約30m³の貯留浸透量を確保
安全な水道水を安定供給するために、企業団と関係市町の事務連絡会を実施した。

(環境)

水道水源地との友好都市の提携を図った。(産業)

善意の井戸水登録制度(湯水時に使用を目的とした制度)を維持し、新規登録者募集
に合わせて、これまでの登録者に意向調査を行い、利用看板の設置を依頼した。

(87ヶ所 H20年度) (環境)

小中学校の水道口に節水コマをつけ、節水に心がけた。(学教)

平成21年度実施

雨水の流出抑制を図るため、歩道の透水性舗装率を高めた。(土木)

二村台地区にて実施 ... 約910m²

栄町舟田地区のフェロシルト撤去作業は、全て完了した。(環境)

搬出土量 ... 35,589t

次のとおり継続して各種事業を行った。

安全な水道水を安定供給するために、愛知中部水道企業団と関係市町の事務連絡会
を実施した。(環境)

水道水源地との友好都市の提携を図った。(産業)

水源地での植栽・下草刈を実施した。

善意の井戸水登録制度(湯水時に使用を目的とした制度)を維持し、新規登録者募
集に合わせて、これまでの登録者に意向調査を行った。

(88ヶ所 H21年度) (環境)

小中学校の水道口に節水コマ・節水シールをつけ、節水に心がけた。(学教)

平成22年度実施

雨水の流出抑制を図るため、歩道の透水性舗装率を実施した。

(二村台地区にて約600m²)(土木課)

栄町舟田地区のフェロシルト撤去後、監視とモニターを行っている。(環境課)

安全な水道水を安定供給するために、愛知中部水道企業団と関係市町の事務連絡会を実施した。(都市計画課)

水源地自治体との友好都市の提携を行い、水源地の植栽と下草刈を実施した。

(産業振興課)

災害時等に使用できる井戸を登録してもらう「善意の井戸」制度を継続し、水質検査等を行った。(新規1件、合計90件、検査20件)(環境課)

小中学校の水道口に節水コマ・節水シールをつけ、節水に心がけた。(学教教育課)

(第4次総計 2010年目標値) 歩道透水性舗装整備率 7.0%

(第4次総計 2010年現状値) 歩道透水性舗装整備率 11.1%

平成23年度実施

歩道の透水性舗装等を行った。

(土木課) 継続

栄町舟田地区のフェロシルト撤去後の監視とモニター期間が終了した。

(環境課) 完了

安全な水道水を安定供給するために、愛知中部水道企業団と関係市町の事務連絡会を実施した。

(都市計画課) 継続

水源地自治体との友好都市の提携を行い、水源地の植栽と下草刈を実施した。

(産業振興課) 継続

善意の井戸制度を継続し、水質検査等を行った。

(新規2件、合計92件、検査20件)

(環境課) 継続

小中学校の水道口に節水コマ・節水シールをつけ、節水に心がけた。

(学教教育課) 継続

I 災害に強い都市づくり

環境目標

(短期目標)

自主防災組織の設立をめざします。(注1)

(長期目標)

市民の生命、身体及び財産を災害から保護することをめざします。

(注1) 第4次総合計画に、2004年(現状値)に90、2010年に124と目標値が定められている。

目標設定にあたって(H18)

市内全域での自主防災組織の設立をめざす。

次の事業は継続します。

・ 水害に強い都市づくり

総合治水対策施設としての整備計画を立案して、整備に努めます。

排水機場(大脇・阿野・大久伝)の維持管理に努めます。

・ 地震に強い都市づくり

国土地理院発行の活断層(猿投境川断層)の地図を利用して危険性の周知を図ります。

防災対策の推進を図ります。

・ 火災に強い都市づくり

地域防災計画による燃えにくい市街地の整備を進めます。

計画の修正等

自主防災組織の設立(町内会)124(第4次総計より 2010年目標値)

目標の検証(H19)

市内全域での自主防災組織の設立をめざし、19年度に全地域達成できた。

・ 水害に強い都市づくり

総合治水対策基本計画を進めています。

排水機場(大脇・阿野・大久伝)の整備が19年度完了した。

・ 地震に強い都市づくり

国土地理院発行の活断層(猿投境川断層)の地図を利用して危険性の周知を図った。

防災対策の推進を図った。

木造住宅の無料耐震診断及び耐震改修への補助を行った。

豊明市耐震改修促進計画を策定中である。(平成19年度未完了予定)

・火災に強い都市づくり

地域防災計画による燃えにくい市街地の整備を進めます。

・自主防災組織の設立(町内会)124できた。

(第4次豊明市総合計画より 2010年目標値)

平成20年度実施

濁池の洪水調節容量を1万5百m³増加させることができた。(都市)

外国人向けに防災マップを作成し、避難支援の推進を図った。(防災)

英語・中国語・ポルトガル語・タガログ語の4カ国。3,000部

市内の自主防災組織を組織化し、「豊明市自主防災組織連合会」を平成21年度に発足
に向け要綱を制定し、防災リーダー(12名)を選出した。(防災)

公共施設(建物)の耐震改修工事を予定より2年間早めた。(H27 H25)

自主防災組織の設立を行った。(防災)

市内全域に121団体(2区、119町内会)

第4次豊明市総合計画より 2010年目標値

市内全町内会単位に設置 124団体

新田公園を防災型公園に改修を実施した。(都市)

(例)釜戸ベンチ・防災倉庫の設置等

平成21年度実施

豊明市自主防災組織連合会をスタートした。(防災)

121団体 「防災リーダー12名」

第4次豊明市総合計画より 2010年目標値

・市内全町内会単位に設置 124団体

治水能力を持たせるため榎山池(5,000t)の改修工事を行った。(都市)

公共施設(建物)の耐震改修工事を予定より2年間早めた。(H27 H25)

新栄町山ノ神公園を防災型公園に改修を実施した。(都市)

(釜戸ベンチ・防災倉庫の設置等 「4公園に設置」)

次のとおり継続して各種事業を行った。

防災対策の推進としては、災害支援協力に関する協定を20団体と締結している。

(防災)

青色回転灯を貸し出し(5基)、地域の防犯活動に努めている。(防災)

平成22年度実施

- 豊明市自主防災組織連合会を通じて防災リーダー等の育成を図った。(総務防災課)
- 計画的に避難所の整備に取り組んだ(総務防災課)
- 公共の建物の耐震改修工事を進めた。
 - (学校教育課、生涯学習課、児童課、総務防災課)
 - 三崎町の中ノ坪公園の改修に併せ、市民の声を反映し、防災施設を設置した。
 - (都市計画課)
 - 大狭間池の改修工事を実施した。(土木課)

(第4次総計 2010年目標値)	自主防災組織の設立(町内会)	124団体
(第4次総計 2010年現状値)	自主防災組織の設立(町内会)	121団体

平成23年度実施

- 豊明市自主防災組織連合会を通じて防災リーダー等の育成を図った。
 - (総務防災課)継続
 - 計画的に避難所の整備に取り組んだ。
 - (総務防災課)継続
 - 公共の建物の耐震改修工事を進めた。
 - (学校教育課、生涯学習課、児童課、総務防災課)継続
 - 整備計画に基づいた総合治水対策施設の整備を進めた。
 - (土木課)継続

Ｊ 潤いと安らぎのあるまちづくり

環境目標

(短期目標)

住民1人当たりの都市公園の敷地面積の増大をめざします。(注1)

(長期目標)

市民・ボランティア・事業者・行政の協力体制を確立し、潤いと安らぎのあるまちづくりをめざします。

(注1) 第4次総合計画に、2004年(現状値)に4.42㎡、2010年に4.56㎡、2015年に5.28㎡と目標値が定められている。

目標設定にあたって(H18)

都市公園の当該市街地の住民一人当たりの敷地面積の増大をめざします。

次の事業は継続します。

街路樹の剪定を定期的(年2回)に行います。

地域緑化の推進のために、緑化木配布、新築家庭記念樹配布、各セミナー、花の種配布を継続します。

区で花いっぱい運動に取り組んでいただきます。

530運動の実施・環境美化に寄与した者の表彰制度を継続します。

アダプトプログラム制度の整備。それにともない、保険への加入により美化活動者支援を行います。

計画の修正等

公園の整備計画を推進する。

住民1人当たりの都市公園の敷地面積4.56㎡(第4次総計より 2010年目標値)

目標の検証(H19)

都市公園の当該市街地の住民一人当たりの敷地面積の増大をめざした。

道路樹の剪定を定期的(年2回)に行った。

地域緑化の推進のために、緑化木配布、新築家庭記念樹配布、各セミナー、花の種配布を継続して行った。

530運動の実施・環境美化に寄与した者の表彰を行った。

アダプトプログラム制度の整備。それにともない、保険への加入により美化活動者支援を行った。

みなみやま公園を新設した。

- ・公園の整備計画を推進する。

平成20年度実施

都市公園の維持管理を継続して行った。(都市)
道路樹の剪定を定期的(年2回)に行った。(土木)
地域緑化の推進のために、緑化木配布、新築家庭記念樹配布、各セミナーを継続して行った。(都市)
530運動の実施・環境美化に寄与した者の表彰を行った。(環境)(土木)
アダプトプログラム制度の整備。それにともない、保険への加入により美化活動者支援を行った。(市民協働)
公園の整備計画を推進する。

平成21年度実施

次のとおり継続して各種事業を行った。
都市公園の維持管理を継続して行った。(都市)
道路樹の剪定を定期的(年2回)に行った。(土木)
地域緑化の推進のために、各セミナーを継続して行った。(都市)
530運動の実施・環境美化に寄与した者の表彰を行った。(環境)
アダプトプログラム懇談会の開催。それにともない、保険への加入により美化活動者支援を行った。(市民協働)
公園の整備計画を推進する。

平成22年度実施

都市公園の維持管理を継続して行った。(都市計画課)
道路樹の剪定を定期的(年2回)に行った。(土木課)
地域緑化の推進のために、各セミナーを継続して行った。(都市計画課)
530運動の実施・環境美化に寄与した者の表彰を行った。(環境課)
アダプトプログラム懇談会の開催し、美化活動者支援を行った。(市民協働課)

住民1人当たりの都市公園の敷地面積

4.56m² <第4次総合計画 2010年目標値>
4.36m² <第4次総合計画 2010年現状値>

平成23年度実施

都市公園の維持管理を行った。

(都市計画課) 継続

道路樹の剪定を定期的に行った。

(土木課) 継続

地域緑化の推進のために、各セミナーを行った。

(都市計画課) 継続

530運動の実施・環境美化に寄与した者の表彰を行った。

(環境課) 継続

アダプトプログラムの現場見学会を実施、活動者同士の意見交換を行った。

(市民協働課) 新規

公園整備計画に基づき整備を進めた。

(都市計画課) 継続

K より良い道路環境づくり

環境目標

(短期目標)

都市計画道路の整備をめざします。(注1)

(長期目標)

道路における各種公害に関しては、法令等で定められた環境基準・規制基準値内を維持します。

(注1) 第4次総合計画(整備率)に、2004年(現状値)に81.2%、2010年に83.0%、2015年に84.0%と目標値が定められている。

目標設定にあたって(H18)

都市計画道路の整備を進めます。

次の事業は継続します。

観測所による常時測定(阿野・大脇地区)で、大気汚染状況を測定しています。
 県環境調査センターによる騒音・振動測定(23号線・国道1号線)を行います。
 中日本高速道路(株)・国交省等による協定書に基づき、関係機関の協議を行います。
 歩道整備、交差点段差解消を図ります。
 ひまわりバス運行を継続し、より充実を図ります。

計画の修正等

都市計画道路整備率83% (第4次総計より 2010年目標値)

目標の検証(H19)

都市計画道路の整備を進めた。

道路環境づくりを進めた。

観測所(阿野・大脇地区)にて、大気汚染状況を測定した。
 県環境調査センターによる騒音・振動測定(23号線・国道1号線)を行った。
 中日本高速道路(株)・国交省等による協定書に基づき、関係機関の協議を行った。
 歩道整備、交差点段差解消を図った。

公共交通機関の整備を進めた。

ひまわりバス運行を継続し、より充実を図った。
 前後駅南に月ぎめ駐車場を整備した。

平成20年度実施

道路に関する環境測定（環境）

観測所（阿野・大脇地区）にて、大気汚染状況を測定した。

県環境調査センター等による騒音・振動測定（23号線・国道1号線）を行った。

中日本高速道路㈱・国交省等による協定書に基づき、関係機関の協議を行った。

公共交通機関の整備を進めた。（産業）

ひまわりバス路線変更等の見直しを図るために、「地域公共交通会議」を立ち上げた。

ハード面での整備（土木）

自転車・歩行者通行帯にカラー表示を取り入れた。

平成21年度実施

・道路に関する環境測定（環境）

第2東名観測所（阿野・大脇地区）にて、大気汚染測定を行った。

県環境調査センターによる大気汚染測定（瀬戸・大府・東海線）を行った。

県環境調査センターによる騒音・振動測定（23号線・国道1号線）を行った。

中日本高速道路㈱・名四国道事務所等による協定書に基づき、関係機関の協議を行った。

・公共交通機関の整備を進めた。

ひまわりバス路線変更等の見直しを図るために、「地域公共交通会議」を立ち上げ現在検討を進めている。（産業）

・ハード面での整備

自転車・歩行者通行帯にカラー表示を取り入れた。（大久伝町他7箇所）（土木）

市道大脇・館線（南館地内）の完成。（都計）

市道熊野・豊明線道路改良工事に着手。（都計）

豊明駅広場の整備工事に22年度より予定。

平成22年度実施

環境測定を継続して行った。（環境課）

第2東名観測所（阿野・大脇地区）にて大気汚染測定

県環境調査センターによる大気汚染測定（瀬戸・大府・東海線）

県環境調査センターによる騒音・振動測定（23号線・国道1号線）

「地域公共交通会議」により、ひまわりバス路線の再編を行った。(産業振興課)
ハード面での道路整備を行った。

- ・自転車・歩行者通行帯を5か所カラー表示した。(土木課)
- ・市道熊野・豊明線の道路改良工事を実施している。(都計計画課)
- ・豊明駅南駐車場の運用を開始した。(都計計画課)

都市計画道路整備率 83.0% (第4次総計 2010年目標値)

都市計画道路整備率 82.7% (第4次総計 2010年現状値)

平成23年度実施

阿野・大脇の大気環境測定局の維持管理を行った。

(環境課) 継続

県による道路騒音・振動及び大気汚染の測定を行った。

(主要県道瀬戸大府東海線、国道23号、国道1号)

(環境課) 継続

ひまわりバスの運行形態を循環型から幹線・支線型に変更した。

(産業振興課) 継続

ハード面での道路整備を行った。

- ・市道熊野・豊明線の道路改良工事を実施した。(都計計画課)
- ・前後駅南、豊明駅南駐車場を運営した。(都計計画課)

NEXCO 中日本、国土交通省とともに、第2東名自動車道の騒音対策協議を行った。

(環境課) 継続

L 環境汚染のないまちづくり

環境目標

(短期目標)

環境汚染の監視及び指導體制の強化を図ります。

(長期目標)

道路、工場・事業所、事業活動、廃棄物処理等、市内の施設・活動による環境影響や環境汚染の監視を行っていきます。

各種規制対象物質においては、規制基準値内を維持していきます。

目標設定にあたって(H18)

環境監視員制度を導入し、指導監視しているが、まだ充分とはいえないため強化を図ります。

次の事業は継続します。

水質調査(7河川・8ため池・8排水路)を年2回(春・秋)実施し、データの蓄積を図っていきます。

ダイオキシン類の調査を市役所屋上にて実施(年4回)していきます。

生活上の苦情解決に努めます。(犬猫の飼い方・屋外焼却行為・ポイ捨て等)

顕著な悪化が見られた場合は、改善・指導を行います。

計画の修正等

大気汚染 4、騒音 5、悪臭 2 (第4次総計より 2010年目標値)

目標の検証(H19)

環境監視員を2人体制にし、休日も指導監視している。

水質調査(7河川・8ため池・8排水路)を年2回(春・秋)実施し、データの蓄積を図っている。

ダイオキシン類の調査を市役所屋上にて実施(年4回)しています。

生活上の苦情解決に努めた。(犬猫の飼い方・屋外焼却行為・ポイ捨て等)

フェロシルトが不法投棄されていることがわかり、地権者と協議し業者に早期撤去を指導した

平成20年度実施

環境汚染対策に行ったこと（環境）

環境監視員を完全2人体制にし、休日も指導監視した。

水質調査（7河川・8ため池・8排水路）を年2回（春・秋）実施し、データの蓄積を図っている。

ダイオキシン類の調査を市役所屋上にて実施（年4回）しています。

生活上の苦情解決に努めた。（犬猫の飼い方・屋外焼却行為・ポイ捨て等）

フェロシルトが不法投棄されていることがわかり、地権者と協議し業者に早期撤去を指導し、今年度中に撤去完了予定である。

平成21年度実施

環境汚染対策に行ったこと（環境）

環境監視員を完全2人体制にし、休日も指導監視した。

河川、池、排水路の水質調査（7河川・8ため池・8排水路）を年2回（春・秋）実施した。

生活上の苦情解決に努めた。（犬猫の飼い方・屋外焼却行為・ポイ捨て等）

フェロシルト撤去作業が完了した。

土砂等の採取及び埋め立て等に関する条例の施行に伴い土砂等の採取現場の巡回を行った。

生活排水対策推進計画により河川浄化のため「水切ネット」を配布。

平成22年度実施

・環境汚染対策として監視活動を行った。（環境課）

環境監視員によるパトロールを毎日行った。

河川、池、排水路の水質調査を春・秋の年2回実施した。

土砂等の採取現場の巡回を行った。

完了したフェロシルト撤去作業の事後監視をした。

一般生活上の苦情解決に努めた。（犬猫の飼い方・野焼き・雑草等）

（第4次総計 2010年目標値） 大気汚染：4、騒音：5、悪臭：2（件）

（第4次総計 2010年現状値） 大気汚染：2、騒音：2、悪臭：3（件）

平成23年度実施

公害苦情対策として監視活動を行った。 (環境課) 継続

- ・環境監視員によるパトロール(毎日)
- ・河川、池、排水路の水質調査(年2回)
- ・土砂等の採取現場の巡回(随時)
- ・完了したフェロシルト撤去作業の事後監視(随時)
- ・一般生活上の苦情処理(随時)

広域連携による公害・環境対策を行った。 (環境課) 継続

- ・尾張東部環境保全連絡協議会(6回)
- ・境川流域公害担当者連絡会(4回)
- ・名古屋市隣接市町不法投棄連絡協議会(2回)
- ・尾張東部地域環境保全委員連絡会(5回)

M 快適で安全な都市づくり

環境目標

(短期目標)

環境調和・配慮型事業所数250をめざします。

(長期目標)

環境調和・配慮型事業所数1000をめざします。

快適で安全な都市基盤整備の達成をめざします。

目標設定にあたって(H18)

環境調和・配慮型事業所の締結が図れなかったため、まず250の事業所の協力を依頼していきます。

事業認定にあたり市独自の認定基準を設けるようにします。

商工会と連携し、環境省等の認定制度をPRに努めます。

市で講習会を主催したりして、事業者に働きかけます。

目標の検証(H19)

環境調和・配慮型事業所の設置をめざすために、「ECOとよあけ環境事業所設置要綱」を策定し、商工会をとおして事業所へ協力の依頼をしています。

商工会と連携し、環境省等の認定制度をPRに努めた。

市で講習会を主催したりして、事業者に働きかけた。

平成20年度実施

・環境調和・配慮型事業所の設置をめざすために、「ECOとよあけ環境事業所設置要綱」を策定し、商工会をとおして事業所へ協力の依頼をした。(環境)

4つの事業所より申込み

・安全な都市づくり(防災)

「豊明市安心と安全な防犯まちづくり条例」を制定した。

犯罪の緊急情報を配信している。

(安心安全メール登録者数 1,681件 H21.1.1現在)

犯罪情報のネットワーク化を推進させた。

安全なまちづくり活動の秋、年末運動において公用車6台によるマイク広報を実施した。

自主防犯ボランティア団体が行う地域防犯活動に対し資材提供を実施した。
新設90灯を目標に防犯灯の設置費補助及び防犯灯電気料金の補助を実施した。
駐輪場の自転車盗難防止のため、のぼり旗を掲示し啓発を実施した。

- ・道路の安全面（土木）
歩行者通行帯にカラーペイントを施工した。

平成21年度実施

- ・環境調和・配慮型事業所の設置をめざすために、「ECOとよあけ環境事業所」を商工会と協力して事業所へ依頼した。（環境）
- ・都市基盤整備のため土地所有者に対して土地利用アンケート調査を行った。（企画）
- ・安全な都市づくり（防災）
 - 防災・防犯等の緊急情報を配信し、犯罪情報のネットワーク化を推進している。
（安心安全メール登録者数 2,071件 H22.2.1現在）
 - 防犯灯52基の新設、114基の修繕を行い設置費補助及び防犯灯電気料金の補助を実施した。
 - 安全・安心の街づくりをするため、防犯パトロール活動の実施。
 - 前後駅及び豊明駅駐輪場の自転車盗難防止のため、のぼり旗を掲示し啓発活動の実施を継続した。
 - 自主防犯ボランティア団体が行う地域防犯活動に対し資材提供を実施した
- ・道路の安全面（土木）
歩行者通行帯にカラーペイントを施工した。（大久伝町他）

平成22年度実施

- ・安全な都市づくり（総務防災課）
 - メール配信サービスにより、犯罪情報のネットワーク化を図った。
 - 防犯灯の新設、修繕、設置費補助、電気料金補助を実施した。
 - 防犯パトロール活動の実施した。
 - 駅駐輪場の自転車盗難防止のため啓発活動のを行った。
 - 自主防犯団体に資材提供を行った。
- ・道路の安全性の向上（土木課）
道路側溝に蓋をかけ、歩行者通行帯を確保し、カラーペイントを施工した。

平成23年度実施

- ・安全な都市づくり （総務防災課）継続
 - メール配信サービスにより、犯罪情報のネットワーク化を図った。
 - 防犯灯の新設、修繕、設置費補助、電気料金補助を実施した。
 - 防犯パトロール活動を実施した。
 - 駅駐輪場の自転車盗難防止のため啓発活動を行った。
 - 自主防犯団体に資材提供を行った。
- ・道路の安全性の向上 （土木課）継続
 - 道路側溝に蓋をかけ、歩行者通行帯を確保する等のカラー表示を施工した。

N ごみから超ごみへの転換

<p>環境目標</p> <p>(短期目標)</p> <p>一人一日あたりのごみ排出量20g/毎年減量をめざします。</p> <p>事業系ごみ排出量を2005年比で30%削減をめざします。</p> <p>(長期目標)</p> <p>市民・事業者・行政の協力・連絡体制を確立するとともに、その取組を豊かなまちづくりに活かしていきます。</p> <p>市内全ての廃棄物の処理や投棄について、環境影響や環境汚染を監視していきます。</p> <p>ごみゼロ社会をめざします。</p>
--

目標設定にあたって(H18)

ここでいうごみは、家庭から排出されるごみである。

<一人一日あたりのごみ排出量一覧表>

年 度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
排出量(g)	516.5					

3R(Reduce:発生抑制。Reuse:再使用。Recycle:再生利用)を推進することにより減量化をめざします。毎年の削減目標を掲げることにより実効性を求めた。

<事業系ごみ排出量>

年 度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
排出量(t)	5,570					

事業系ごみは、2005年比で30%の削減をめざす。

循環型ライフスタイルをめざすために次のことを行います。

530運動(春・秋)を継続して行います。

ごみ分別のパンフの改良・出前講座を実施し、ごみ意識の向上と分別の徹底を図ります。

「犬の飼い方教室」を開催し、正しい犬の飼い方を推進します。

ボカシを市民に無料配布(市役所・JA)します。

堆肥センターを建設により、生ごみ堆肥化事業の地区拡大を図ります。

商工会の協力により事業所の資源ごみ回収事業を始めます。

計画の修正等

N-2-f 生ごみ処理機補助制度の推進の削除 補助金制度が廃止されたため。

目標の検証（H19）

530運動（春・秋）を継続して行った。
ごみ分別のパンフの改良・出前講座を実施し、ごみ意識の向上と分別の徹底を図った。
「犬の飼い方教室」を開催し、正しい犬の飼い方を推進した。
ボカシを市民に無料配布（市役所・JA）した。
沓掛堆肥センターを建設し、生ごみ堆肥化事業の地区拡大を図った。
商工会の協力により事業所の資源ごみ回収事業を始めた。

平成20年度実施

- ・ごみの減量化への取り組み（環境）

ごみのない日本一きれいな街豊明づくりで、「クリーンアップ大作戦」を実施し、公共施設の周辺一斉清掃（毎月23日）を職員にて実施した。
ごみ分別のパンフ（日本語版）の改良を実施した。
「犬の飼い方教室」（2年目）を開催し、正しい犬の飼い方を推進した。
ボカシを市民に無料配布（市役所・JA）した。
生ごみ堆肥化事業の地区拡大（約8,000世帯）し、エコ堆肥のブランド化を図った。
平成18年度より商工会の協力により、事業所の資源ごみ回収事業（月2回）を実施した。
レジ袋の削減運動（発生抑制）を市民団体と協働で実施した。

平成21年度実施

- ・現状のごみの減量化への取り組み（環境）

ごみのない日本一きれいな街豊明づくりで、「clean up きれいな街 豊明」を実施し、公共施設の周辺一斉清掃（毎月23日）を職員にて実施している。
「犬の飼い方教室」（3年目）を開催し、正しい犬の飼い方の講座及び実地訓練を開催した。
ボカシを市民に無料配布（市役所・JA）した。
生ごみ堆肥化事業の地区拡大（約8,000世帯）を実施し、Eco堆肥のブランド化を図った。
商工会の協力により、事業所の資源ごみ回収事業（月2回）を実施した。
レジ袋の削減運動（発生抑制）として新たに1事業所と協定を取り交わした。
ごみの組成調査（可燃・不燃・プラスチック製容器包装）を実施し分別の意識を図った。

平成22年度実施

- ・ ごみの減量化に向け、以下の取り組みを行った。(環境課)
 - 「clean up きれいな街 豊明」キャンペーンにより、市職員が率先して公共施設の周辺清掃を行った。
 - 犬の飼い方教室を開催した。
 - 家庭用たい肥剤「ボカシ」を無料配布した。
 - 生ごみ堆肥化事業の地区を拡大し、Eco堆肥のブランド化を図った。
 - 事業所の資源ごみ回収事業を実施した。
 - レジ袋の削減運動(発生抑制)を行った。
 - ごみの組成調査(可燃・不燃・プラスチック製容器包装)を行い、分別意識の徹底を図った。

平成23年度実施

- ・ ごみの減量化に向け、以下の代表的な取り組みを行った。(環境課)継続
 - 「clean up きれいな街 豊明」キャンペーンにより、市職員が率先して公共施設の周辺清掃を行った。
 - 犬の飼い方教室を開催した。
 - 家庭用たい肥剤「ボカシ」を無料配布した。
 - 生ごみ堆肥化事業を推進し、Eco堆肥のブランド化を図った。
 - 事業所の資源ごみ回収事業を実施した。
 - レジ袋の削減運動(発生抑制)を行った。
 - ごみの組成調査(可燃・不燃・プラスチック製容器包装)を行い、分別意識の徹底を図った。

一人一日あたり家庭ごみ排出量

年 度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
排出量(g)	523.4	506.7	492.0	479.0	474.2	476.9

事業系ごみ排出量

年 度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
排出量(t)	5,111	3,970	3,378	3,172	2,973	3,021

〇 食の安全

環境目標

(長期目標)

有機農産物、食品添加物、遺伝子組み換え食品等に関する情報を提供します。
地元での食料自給によって食の安全をめざします。

目標設定にあたって(H 1 8)

- ・ 食生活の安全を図るためには、有機農産物、食品添加物、遺伝子組み換え食品等に関する情報を市民に提供することが不可欠なため、長期目標に組み入れることにした。
- ・ 次の事項については、今後も継続して行います。

豊明まつり「みんなの生活展」にて啓発活動を行います。

「食品品質表示の早わかり」等のパンフレットを配布します。

消費生活講座を実施します。

農薬の使用について法律の改正があれば、その都度情報を提供します。

生ごみ堆肥化事業の本格稼動と、堆肥の利用拡充を図ります。

農村環境改善センターにて、豊明産大豆を使用した「味噌作り講座」を引き続き開催します。

学校給食にて地産地消の拡大をめざします。

目標の検証(H 1 9)

豊明まつり「みんなの生活展」にて啓発活動を行った。

「食品品質表示の早わかり」等のパンフレットを配布した。

消費生活講座を実施した。

農薬の使用について法律の改正をその都度、情報提供した。

生ごみ堆肥化事業の本格稼動し、堆肥の利用拡充を図った。

農村環境改善センターにて、豊明産大豆を使用した「味噌作り講座」を引き続き開催した。

学校給食にて地産地消の拡大をめざした。

山田試験農場を設けて、生ごみ堆肥の利用拡大を図った。

平成20年度実施

<食の安全に関すること>

保育園の給食の実施にあたっては、食材納入契約時に「成分表等」の提出を求め、確認作業を実施している。(児童)

学校給食での、食品の安全性についての取り組み状況(学教)

- ・ 毎月の「物資選定会」の際、業者から提出された「食品チェック表」をもとに、従来よりもより厳しく・細かくチェックし審査している。
「食品チェック表」=原材料の原産国・加工工場・配合割合・食品添加物等
- ・ 卵製品は2学期は自粛し、3学期から使用再開した。
- ・ 野菜や果物は国産を指定している。
- ・ ひじき、わかめ、きぬさや、むき枝豆など国産に切り替えた。

<地産地消に関すること>

農村環境改善センターにて、豊明産大豆を使用した「味噌作り講座」を引き続き開催した。(産業)

保育園の米飯を、一部豊明産の「米」を利用している。(児童)

学校給食で、卵・野菜等豊明産を利用している。(学教)

<有機循環資源リサイクルシステムの推進>

生ごみ堆肥化事業を本格稼働し、とよあけEco堆肥使用の農作物のブランド化を図った。(協力戸数 8,000世帯)(環境)

山田体験農園を設けて、とよあけEco堆肥の利用拡大を図った。(環境)

農業講座を連続5回シリーズで開催した。(環境)

平成21年度実施

<食の安全に関すること>

保育園での給食の取り組み状況(児童)

- ・ 食材納入契約時に「成分表等」の提出を求め、確認作業を実施している。
- ・ 3園で陶器食器を使用しており、その効果をプロジェクトチームにて検討をしています。

学校給食での、食品の安全性についての取り組み状況(学教)

- ・ 毎月の「物資選定会」の際、業者から提出された「食品チェック表」をもとに、従来よりもより厳しく・細かくチェックし審査している。
「食品チェック表」=原材料の原産国・加工工場・配合割合・食品添加物等
- ・ 国産品及び地元産をできるだけ使用している。
- ・ 食器類については、定期的に衛生検査を実施している。

< 地産地消に関すること >

農村環境改善センターにて、豊明産大豆を使用した「味噌作り講座」を引き続き開催した。(産業)

産直所(西部)を拡大した。

保育園の米飯を、一部豊明産の「米」を利用している。(児童)

学校給食では、豊明産の卵・野菜等を利用している。(学教)

< 有機循環資源リサイクルシステムの推進 >

生ごみ堆肥化事業を本格稼働し、とよあけEco堆肥を使って育てられた農産物のブランド化販売を図り、農産物認証制度を開始した。(環境)

3種類 (緑色・黄色・赤色)

とよあけEco堆肥を利用した山田試験農園の拡大を図った。(環境)

有機循環推進フォーラムを毎年開催している。(環境)

平成22年度実施

< 食の安全 >

- ・ 保育園の給食における組み(児童課)

食材納入契約時に成分表等の提出を求め、確認作業を実施している。

3園で陶器食器を使用し、効果をプロジェクトにて検討している。

- ・ 学校給食における取り組み(学教)

業者が提出する食品チェック表により、厳しく細かく審査している。

(食品チェック表：原材料原産国、加工工場、配合割合、食品添加物等を記載)

国産品及び地元産をできるだけ使用している。

食器類の衛生検査を定期的に行っている。

< 地産地消 >

豊明産大豆を使用した「味噌作り講座」を開催した。(産業振興課)

保育園の米飯給食に一部豊明産米を使用している。(児童課)

学校給食で豊明産の野菜等を使用している。(学教教育課)

< 有機循環 >

生ごみ堆肥化事業による「とよあけEco堆肥」を使う農産物のブランド化販売を図り、農産物認証制度を推進した。(環境課)

とよあけEco堆肥を利用した山田試験農園の拡大を図った。(環境課)

有機循環推進フォーラムを毎年開催している。(環境課)

平成23年度実施

<食の安全>

- ・ 保育園の給食における組み（児童福祉課）継続
食材納入契約時に成分表等の提出を求め、確認作業を実施している。
4園で陶器食器を使用し、効果をプロジェクトにて検討している。
- ・ 学校給食における取り組み（学校教育課）継続
業者が提出する食品チェック表により、厳しく細かく審査している。
（食品チェック表：原材料原産国、加工工場、配合割合、食品添加物等を記載）
国産品及び地元産をできるだけ使用している。
食器類の衛生検査を定期的実施している。

<地産地消>

- 豊明産大豆を使用した「味噌作り講座」を開催した。（産業振興課）継続
- 保育園の米飯給食に一部豊明産米を使用している。（児童福祉課）継続
- 学校給食で豊明産の野菜等を使用している。（学教教育課）継続

<有機循環>

- 生ごみ堆肥化事業による「とよあけEco堆肥」を使う農産物のブランド化販売を図り、農産物認証制度を推進した。（環境課）継続
- とよあけEco堆肥を利用した山田試験農園の拡大を図った。（環境課）継続
- 有機循環推進フォーラムを毎年開催している。（環境課）継続

P 地球規模で考えるこのまちの取り組み

環境目標

(短期目標)

豊明市における二酸化炭素の排出量を1990年レベルより6%削減をめざします。

目標設定にあたって(H18)

京都議定書の発効(2008～2012)があり、削減目標が1990年レベルで6%削減と国際協約し、市も実行する責務があるため、短期目標を継続して行います。

・次の事項については、今後も継続して行います。

地球温暖化防止率先計画として、とよあけエコアクションプランを引き続き行います。
グリーン購入の推進のために小中学校卒業時に祝品として再生品を購入し、グリーン購入を行っていきます。

ハイブリッド車・天然ガス車・電動バイクを導入して行きます。

バイオ・ディーゼル燃料(BDF)を公用車に使用します。

全組織をあげて、取り組みを強化します。

計画の修正等

P-3-H 発展途上国の支援等 平成17年度にて終了。

目標の検証(H19)

京都議定書の発効(2008～2012)があり、削減目標が1990年レベルで6%削減と国際協約し、市も実行する責務があるため、削減をめざした。

地球温暖化防止率先計画として、とよあけエコアクションプランを引き続き行った。
小中学校卒業時に祝品として環境課で再生品を購入し、循環型社会推進のPRをした。
ハイブリッド車・天然ガス車・電動バイクの利用促進を図った。
バイオ・ディーゼル燃料(BDF)を公用車に使用できるようにした。
全組織をあげて、取り組みを強化した。

平成20年度実施

・京都議定書の発効(2008～2012)があり、削減目標が1990年レベルで6%削減と国際協約し、市も実行する責務があるため、削減をめざし、とよあけエコアクションプランを引き続き行った。(環境)

- ・新エネルギーの導入にあたって
 - 井ノ花公園・森裏公園・新田公園に各1灯ずつ太陽光発電による照明器具を設置した。
(都市)
 - 保育園の耐震工事に合わせて、ノンフロン型・省エネ型エアコンに取り換えた。
(内山・沓掛・東部保育園)(児童)
- ・地球温暖化防止率先計画として、
 - ハイブリッド車(4台)・天然ガス車(4台)・電動バイク(1台)の利用促進を図った。(総務)
 - 清掃事務所で、家庭用廃食油の常時回収を始め、バイオ・ディーゼル燃料(BDF)に変換し、清掃車(2台)の燃料に使用している。(環境)
 - 庁舎南側と東館周辺に地覆類を植栽し、二酸化炭素の吸収と、酸素の排出に努めた。
(総務)
 - グリーンマーク商品の購入を進めた。(総務)
 - レジ袋有料化による削減を推進した。(環境)

平成21年度実施

- ・京都議定書の発効(2008~2012)があり、削減目標が1990年レベルで6%削減と国際協約し、市も実行する責務があるため、削減をめざし、とよあけエコアクションプランを引き続き行った。(環境)
- ・新エネルギーの導入にあたって
 - 山ノ神公園に新たに太陽光発電による照明器具を設置した。現在は井ノ花公園・森裏公園・新田公園に各1灯ずつ太陽光発電による照明器具を設置。(都市)
- ・地球温暖化防止率先計画として
 - ハイブリッド車(3台)・マイルドハイブリッド車(2台)天然ガス車(6台)・電動バイク(1台)の利用促進を図った。(総務)
 - 事務室の室内温度を常に一定の温度に設定また省エネ蛍光灯を導入した。(総務)
 - 家庭用廃食油の回収拠点を3箇所として、バイオ・ディーゼル燃料(BDF)に変換し、清掃車(2台)の燃料に使用している。(環境)
 - 庁舎南側(一部)にグリーンカーテンとして「アサガオ」を植栽し、二酸化炭素の吸収と、酸素の排出に努めた。(総務)
 - グリーンマーク商品の購入を進めた。(総務)
 - 新たに1事業所をレジ袋削減事業所として締結した。(環境)
 - 毎週木曜日をノーカー出張の日として公共機関の利用を促進している。(環境)

・地球環境問題として

生物多様性条約第10回国際会議COP10の参加に関する事業の取り組み。

「有機循環推進事業の紹介をする」 (企画)

平成22年度実施

<地球環境問題>

地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく、「とよあけエコアクションプラン」を実行した。(環境課)

生物多様性条約第10回国際会議(COP10)に参加し、本市の有機循環推進事業を紹介した。(秘書政策課)

<新エネルギー>

中ノ坪公園に太陽光発電照明を設置した。(5か所め)(都市計画課)

<CO2排出抑制>

公用車にハイブリッドカー等を導入した。(総務防災課)

事務室の空調や照明を省エネに配慮している。(総務防災課)

家庭用廃油からバイオ・ディーゼル(BDF)を精製し、清掃車の燃料に利用している。(環境課)

市庁舎の一部壁面において、アサガオのグリーンカーテンを作った。(総務防災課)

グリーンマーク商品の購入を進めた。(総務防災課)

レジ袋削減事業所を推進した。(環境課)

毎週木曜をノー・カー出張の日と設定し、エコアクションのPRに努めた。(環境課)

商工会街路灯のLED化を推進した。(産業振興課)

平成23年度実施

「とよあけエコアクションプラン」を実行した。

(環境課) 継続

公用車にハイブリッドカー等を導入した。

(総務防災課) 継続

事務室の空調や照明を省エネに配慮している。

(総務防災課) 継続

家庭用廃油からバイオ・ディーゼル(BDF)を精製し、清掃車の燃料に利用した。

(環境課) 継続

市庁舎において、壁面緑化を行った。

(総務防災課) 継続

グリーンマーク商品の購入を進めた。

(総務防災課) 継続

レジ袋削減事業所を推進した。

(環境課) 継続

商工会街路灯のLED化を推進した。

(産業振興課) 継続

住宅用太陽光発電システム設置費補助金を創設した。

(環境課) 新規

二村児童館の館庭、三崎小学校の校庭の一部を芝生化した。

(児童福祉課・学校教育課) 新規

Q 環境教育

環境目標

(長期目標)

市は全ての市民が環境を学び、良く知ることができる機会を創出します。

目標設定にあたって (H18)

長期目標を継続します。次の事項については、今後も継続して行います。

《保育園・小中学校での取り組み》

保育園の余剰地及び周辺のあき地を借り受け、いもの栽培や花を栽培し、生ごみ堆肥を利用して行きます。

小学校4年生の東部知多クリーンセンター見学会を実施して行きます。

環境学習(井堰川の生物調査など)を実施する。(沓掛小)

出前講座を実施・学校の環境学習への協力を行います。

小中学校社会科副読本「とよあけ」を編集し活用して行きます。

小中学校では、校区内のごみを地域の方々と拾う等の清掃・美化活動等を行います。

《生涯学習での取り組み》

豊根野外教育センターでキャンプ活動を行います。

環境学習講座を開催します。

家庭、学校、地域社会と連携しながら継続して行います。

目標の検証 (H19)

《保育園・小中学校での取り組み》

保育園の余剰地及び周辺のあき地を借り受け、いもの栽培や花を栽培し、生ごみ堆肥を利用した。

小学校4年生の東部知多クリーンセンター見学会を行った。

環境学習(井堰川の生物調査など)を行った。(沓掛小)

出前講座を実施・学校の環境学習への協力を行った。

小中学校社会科副読本「とよあけ」に「ごみや水の問題」「環境問題を考える」のテーマを盛り込み、活用している。

小中学校では、校区内のごみを地域の方々と拾う等の清掃・美化活動等を行った。

《生涯学習での取り組み》

豊根野外教育センターでキャンプ活動を行った。

環境学習講座を開催した。

目標の検証（H20）

（平成20年度実施）

《保育園・小中学校での取り組み》（学教）（児童）

保育園の余剰地及び周辺のあき地を借り受け、いもの栽培や花を栽培した。

小学校4年生の東部知多クリーンセンター見学会を行った。

環境学習（井堰川の生物調査・一之御前の里山探検など）を行った。（沓掛小）

出前講座を実施・学校の環境学習への協力を行った。

小中学校社会科副読本「とよあけ」に「ごみや水の問題」「環境問題を考える」のテーマを盛り込み、活用している。

小中学校では、校区内のごみを地域の方々と拾う等の清掃・美化活動等を行った。

《生涯学習での取り組み》（生涯）

豊根野外教育センターでキャンプ活動（小5・中2）を行った。

「田んぼの学校」を開校し、もち米を作付け、刈取り、餅にして食べた。

「竹炭教室」を開講し、竹の伐採から竹炭製作事業を行った。

平成21年度実

《保育園・小中学校での取り組み》（学教）（児童）

保育園の余剰地及び周辺のあき地を借り受け、いもの栽培や花を栽培した。

小学校4年生の東部知多クリーンセンターにて社会見学を行った。

小学校4年生の環境学習（井堰川の生物調査）を行った。（沓掛小）

出前講座を実施・学校の環境学習への協力を行った。

小中学校社会科副読本「とよあけ」に「ごみや水の問題」「環境問題を考える」のテーマを盛り込み、活用している。

小中学校では、校区内のごみ拾い等の清掃・美化活動等を行った。

保育園では、おやつに出たゴミを分別体験している。

《生涯学習での取り組み》（生涯）

豊根野外教育センターでキャンプ活動（小5・中2）を行った。

昨年に続き「田んぼの学校」「竹炭教室」を開校。

「田んぼの学校」については、もち米を作付け、刈取り、餅にして食べた。

「竹炭教室」については、竹の伐採から竹炭事業を行った。

平成22年度実施

< 保育園の取り組み > (児童課)

園の余地や周辺のおき地を借り受け、芋や花を栽培した。

給食やおやつ時に出たゴミの分別を体験させている。

< 小中学校の取り組み > (学校教育課)

小学校4年生の社会見学で、東部知多クリーンセンターに行った。

沓掛小学校4年生の環境学習で、井堰川の生物調査を行った。

小中学校社会科では、副読本により「ごみや水の問題」「環境問題を考える」をとり上げている。

校区内のごみ拾い等の清掃・美化活動等を行った。

< 生涯学習の取り組み > (生涯学習課)

出前講座等により、学校の環境教育、市民の環境学習を支援した。

豊根野外教育センターにより、学校のキャンプ活動(小5・中2)、市民の野外活動を支援した。

「田んぼの学校：稲作を体験し、餅を作って食べる」、「竹炭教室：竹の伐採、竹炭作成」を開校した。

平成23年度実施

< 保育園の取り組み > (児童福祉課) 継続

園の余地や周辺のおき地を借り受け、芋や花を栽培した。

給食やおやつ時に出たゴミの分別を体験させている。

< 小中学校の取り組み > (学校教育課) 継続

小学校4年生の社会見学で、東部知多クリーンセンターに行った。

沓掛小学校4年生の環境学習で、井堰川の生物調査を行った。

小中学校社会科では、副読本により「ごみや水の問題」「環境問題を考える」をとり上げている。

校区内のごみ拾い等の清掃・美化活動等を行った。

< 生涯学習の取り組み > (生涯学習課) 継続

出前講座等により、学校の環境教育、市民の環境学習を支援した。

豊根野外教育センターにより、学校のキャンプ活動(小5・中2)、市民の野外活動を支援した。

R 市民参加・市民行動

環境目標

(長期目標)

全ての市民が環境について考えたり、行動することができる機会を持ちます。

目標設定にあたって(H18)

長期目標を継続します。次の事項については、今後も継続して行います。

豊明市パブリックコメント手続要綱により、市民の声を聞き政策の実施に努めます。

街区公園の再整備では市民の声を反映します。

計画の修正等

環境フェアがH18年度より豊明まつりに組み込まれた。

目標の検証(H19)

豊明市パブリックコメント手続要綱により、市民の声を聞き政策の実施に努めた。

街区公園の再整備では市民の声を反映させた。

平成20年度実施

豊明市パブリックコメント手続要綱により、市民の声を聞き政策の実施に努めた。

(企画)

街区公園の再整備では市民の声を反映させた。(都市)

平成21年度実施

豊明市パブリックコメント手続要綱により、5件の案件について市民の声を聞き政策の実施に努めた。(企画)

アダプトプログラムとの懇談会を実施。(市民協働)

街区公園の再整備では、市民の声を反映させた。(都市)

平成22年度実施

- 豊明市パブリックコメント手続要綱に基づき、市民の声を政策に反映した。(2案件)
- (秘書政策課)
- アダプトプログラムを実施した。(市民協働課)
- 街区公園の再整備において、地域住民の意見を反映させた。(都市計画課)

平成23年度実施

- 住民の意見の政策反映のためのパブリックコメントを実施した。(4件)
- (秘書政策課) 継続
- アダプトプログラムを実施した。
- (市民協働課、土木課、都市計画課、環境課) 継続
- 街区公園の再整備において、地域住民の意見を反映させた。
- (都市計画課) 継続
- 豊明市環境基本計画の第3四半期短期目標の見直しを進めている。
- (環境課) 新規
- アダプトプログラムの現場見学会を実施した。
- (市民協働課) 新規

S 環境施策の推進（市民・事業者・行政のパートナーシップ）

環境目標

（短期目標）

環境基本計画の推進や環境施策の実行等をチェックする、市民と事業者と行政とのパートナーシップによる組織をつくります。

目標設定にあたって（H18）

- ・短期目標にて、パートナーシップ組織をつくることが掲げてあったが、組織作りのための法整備にとどまり、組織自体の立上げができなかったため、再度短期目標とした。
- ・次の事項については、今後も継続して行います。

アダプトプログラム実施により美化活動者支援し、広報によるアダプトプログラムの普及・啓発活動を行います。

環境保全等の活動を行っている市民団体に対し、交流・意見交換・情報共有を行うことができる場を提供（市民活動室）し、情報発信の場の提供（市民活動情報誌「コラボレーション」年2回発行。）を図ります。さらに、市民活動情報サイトを整備し、充実を図ります。

区交付金を通じて、地域美化活動を補助。転入・転居者へチラシ配布を行い、区・町内会加入を促進し、特に、学生・単身赴任者・外国人の未加入問題を解決できるようにします。

外国人のために国際交流活動を活発化します。

目標の検証（H19）

美化活動者を支援し、広報によるアダプトプログラムの普及・啓発活動を行った。

環境保全等の活動を行っている市民団体に対し、交流・意見交換・情報共有を行うことができる場を提供（市民活動室）し、情報発信の場の提供（市民活動情報誌「コラボレーション」年2回発行。）を図った。さらに、市民活動情報サイトを整備し、充実を図った。

「まち育て塾」を立ち上げ、自主的に活動する市民団体の育成に着手した。

区交付金及び資源ごみ回収事業奨励金を通じて、地域美化活動を支援。転入・転居者へチラシ配布を行い、区・町内会への加入の啓発を実施し、合わせて地域美化向上推進の啓発を行った。

外国人のために国際交流活動を活発化した。

目標の検証（H20）

・市民協働パートナーシップ（市民協働）

19年度から実施している「まち育て塾」のメンバーのうち14名が環境団体「四季の物語 紡ぎ隊」を立ち上げ、皆瀬川の清掃活動を月一回実施した。

市内各地に居住する外国籍市民の区・町内会への加入促進や地域ルールの周知を促すため、町内会の依頼を受け、回覧板の翻訳を多言語で行った。

外国籍市民市内案内ツアー実施時に、参加者に対し「ごみの出し方」の多言語版を使用し、外国籍市民にごみ出しルールの徹底を図った。

アダプトプログラムを広くPRするため市のホームページに掲載した。また、区長会開催時に同プログラムのチラシ配布を行った。

環境保全等を行っている団体の交流・意見交換の場として市民活動室を提供した。

また、情報発信の場の提供として、市民活動情報誌「コラボレーション」を年間2回発行するとともに市民活動情報サイトの整備充実を図った。

平成21年度実施

市民協働パートナーシップ（市民協働）

タウンミーティング（外国人の声を聞く会）及び外国籍市民案内ツアーを開催し、防災案内マップ・ごみの分け方・出し方のパンフを配布した。

モリコロ基金制度を受けアダプトプログラム「四季の物語 紡ぎ隊」により定期的な活動として皆瀬川及び側道（前後駅南区域）の清掃活動を実施した。

市の委託事業としてアダプトプログラム「四季の物語 紡ぎ隊」により前後駅南区域の皆瀬川堤防に「花壇」「桜並木」を設置する。

外国籍市民の区・町内会への加入促進や地域ルールの周知を促すため、町内会の依頼を受け、回覧板の翻訳を多言語で行った。

アダプトプログラムを広くPRするため市のホームページに掲載。区長会開催時に同プログラムのチラシ配布を行った。

市民活動団体の交流・意見交換の場として市民活動室を提供した。また、情報発信の場の提供として、市民活動情報誌「コラボレーション」を年間2回発行するとともに市民活動情報サイトの整備充実を図った。

平成22年度実施

・市民協働パートナーシップ（市民協働課）

多国籍市民に向けた市内案内ツアーを開催し、市内の名所や施設等を紹介した。

外国人向けのパンフ「ごみの分け方・出し方について」「防災案内マップ」を配布した。

外国籍の市民に地域ルールの周知を促すため、外国版広報にごみの分け方・出し方を掲載した。

ごみの分け方・出し方のルール、税金や保健等について、豊明生活便利帳を3ヶ国語で作成し配布した。

アダプトプログラムを広くPRするため、市のホームページに掲載し、区長会においてチラシ配布を行った。

市民活動団体の交流・意見交換の場として市民活動室を提供した。

市民活動情報誌「コラボレーション」を発行した。

市民活動情報サイトの整備充実を図った。

平成23年度実施

・市民協働パートナーシップ（市民協働課）継続

多国籍市民に向けた市内案内ツアーを開催し、市内の名所や施設等を紹介した。

外国籍の市民に地域ルールの周知を促すため、外国版広報に「ごみの分け方・出し方」を掲載した。

「ごみの分け方・出し方」の環境ルールや税金、保健等の情報について、豊明生活便利帳を3ヶ国語で作成し配布した。

アダプトプログラム制度を広くPRするため、市の広報誌及びホームページに掲載し、区長会においてチラシ配布を行った。

市民活動団体等の活動拠点や交流・意見交換の場として市民活動室を提供した。

市民活動情報誌「コラボレーション」を発行した。

市民活動情報サイトの整備充実を図った。